

月次改訂

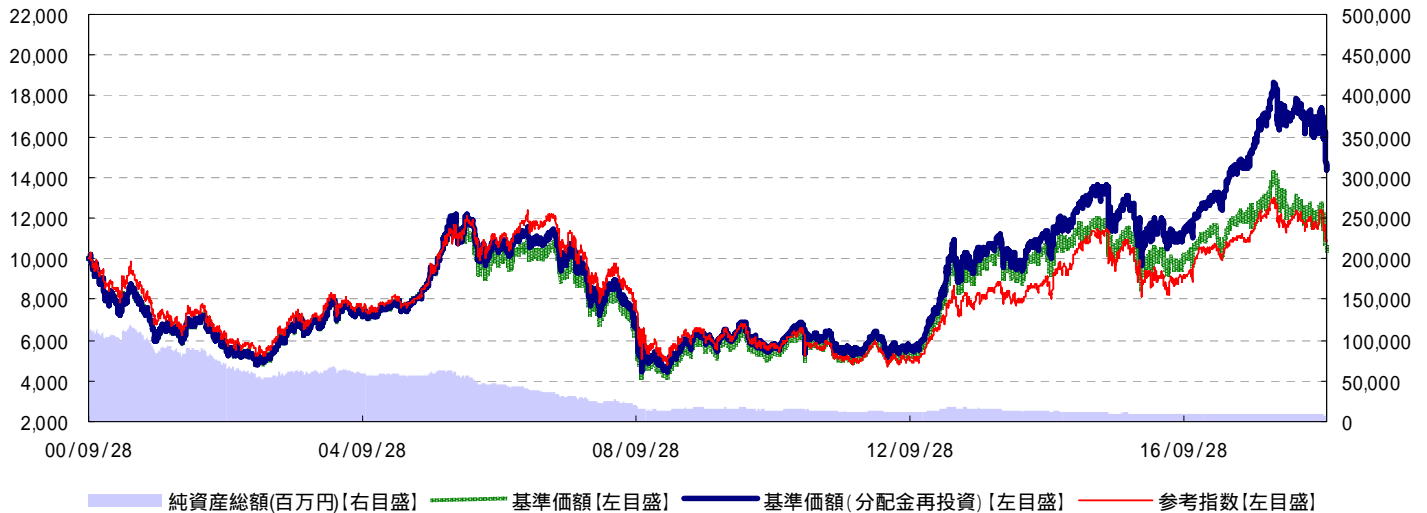
2018 / 10

# ファンド・オブ・オールスター・ファンズ

追加型投信/国内/株式

## 運用状況等

### 基準価額の推移



- ・基準価額、基準価額(分配金再投資)は設定日、参考指数は設定日翌営業日を10,000として指数化しています。
- ・基準価額および基準価額(分配金再投資)は、信託報酬控除後の値です。
- ・信託報酬率については、後記の「ファンドの費用・税金」に記載しています。
- ・基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。
- ・参考指数は前営業日の数値を用いています。

参考指数は東証株価指数(TOPIX)です。

東証株価指数(TOPIX)とは、東京証券取引所第一部に上場する内国普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、わが国の株式市場全体の値動きを表す代表的な株価指数です。TOPIXに関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。東京証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

### ファンドの現況

### 運用資産構成

	2018/10/31	前月末	前月末比
基準価額	10,588円	12,388円	-1,800円
純資産総額(百万円)	7,158	8,416	-1,257

	2018/10/31	前月末	前月末比
投資信託受益証券	96.48%	96.47%	0.01%
短期金融資産	3.52%	3.53%	-0.01%

	基準価額	日付
設定来高値	14,178円	2018/01/24
設定来安値	4,147円	2009/03/11

### 騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
ファンド	-14.53%	-14.23%	-14.00%	-10.83%	17.20%	46.66%
参考指数	-10.48%	-8.86%	-9.07%	-9.00%	4.16%	9.56%
差	-4.05%	-5.36%	-4.93%	-1.83%	13.04%	37.09%

- ・ファンドの騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しております。また、ファンドの騰落率と実際の投資者利回りとは異なります。
- ・設定来のファンドの騰落率は、10,000を起点として計算しています。
- ・設定来の参考指数の騰落率は、設定日翌営業日を起点として計算しています。
- ・参考指数は前営業日の数値を用いています。

表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しております。  
基準価額および分配金は1万口当たりです。

後記の「本資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。

ファンド・オブ・オールスター・ファンズ

分配金実績(税引前)

	直近期	2期前	3期前	4期前	5期前	6期前	設定来累計
決算日	2018/09/27	2018/03/27	2017/09/27	2017/03/27	2016/09/27	2016/03/28	
分配金	100円	500円	1,000円	700円	0円	0円	3,750円

・運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。

運用会社とファンドの紹介

[運用会社と各社が運用するファンド]

運用会社	ファンド名	会社名(略称)
三菱UFJ国際投信	三菱UFJ国際 日本株・スター・ファンド(適格機関投資家用)	三菱UFJ国際A
フィデリティ投信	フィデリティ・日本株ファンド(適格機関投資家用)	フィデリティ
キャピタル・インターナショナル	キャピタル・インターナショナル日本株式ファンド(適格機関投資家用)	キャピタル
JPMorgan・アセット・マネジメント	GIMザ・ジャパン(適格機関投資家用)	JPMorgan
三菱UFJ国際投信	三菱UFJ国際 日本・小型株・ファンド(適格機関投資家用)	三菱UFJ国際B

・上記ファンドは、ファンド・オブ・オールスター・ファンズ(いわゆるファンド・オブ・ファンズ:証券投資信託を主たる投資対象とする投資信託)の組入対象として設定されたもので、一般の投資家が直接上記ファンドを購入することはできません。

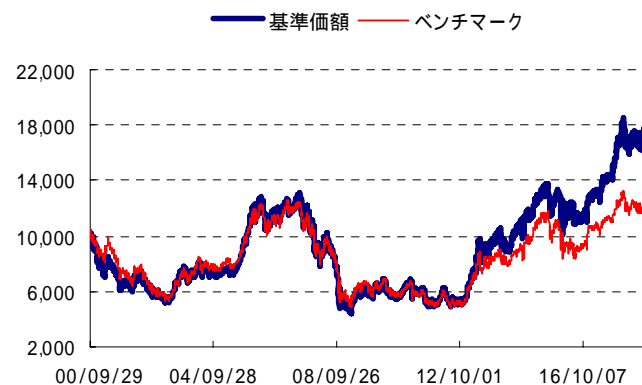
投資対象ファンドの基準価額

ファンド名	基準価額(前日)
三菱UFJ国際 日本株スター・ファンド(適格機関投資家用)	15,054円
フィデリティ・日本株ファンド(適格機関投資家用)	16,470円
キャピタル・インターナショナル日本株式ファンド(適格機関投資家用)	24,964円
GIMザ・ジャパン(適格機関投資家用)	32,493円
三菱UFJ国際 日本・小型株・ファンド(適格機関投資家用)	15,523円

・各ファンドの基準価額は「ファンド・オブ・オールスター・ファンズ」の基準価額算出日(作成基準日)の前日(前営業日)の基準価額を表示しております。

投資対象ファンドの運用状況

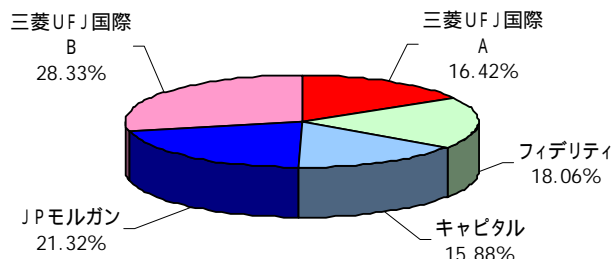
三菱UFJ国際 日本株・スター・ファンド(適格機関投資家用)



騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
ファンド	-12.68%	-9.35%	-7.99%	-4.76%	21.93%	54.76%
ベンチマーク	-9.42%	-6.11%	-7.38%	-6.79%	5.64%	14.36%
差	-3.26%	-3.24%	-0.61%	2.03%	16.28%	40.40%

投資対象ファンドへの資産配分



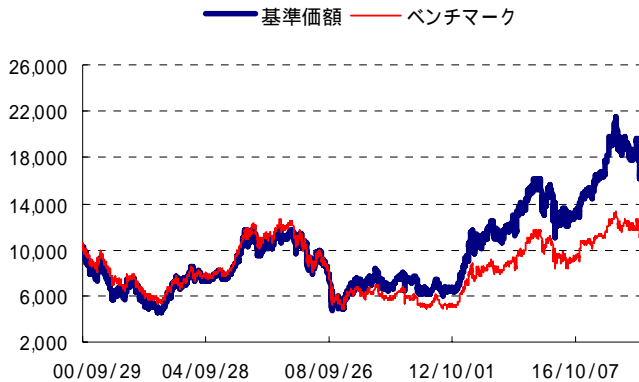
表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しております。  
基準価額および分配金は1万口当たりです。

後記の「本資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。

ファンド・オブ・オールスター・ファンズ

投資対象ファンドの運用状況

フィデリティ・日本株ファンド(適格機関投資家用)



騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
ファンド	-13.74%	-7.90%	-12.36%	-11.21%	14.09%	68.71%
ベンチマーク	-9.42%	-6.11%	-7.38%	-6.79%	5.64%	14.36%
差	-4.33%	-1.79%	-4.99%	-4.42%	8.45%	54.35%

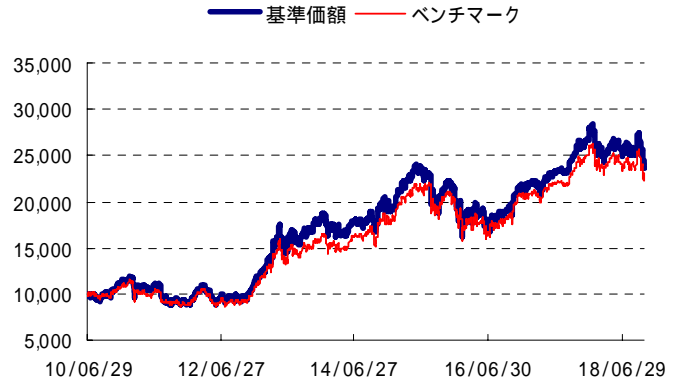
GIMザ・ジャパン(適格機関投資家用)



騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
ファンド	-13.69%	-14.98%	-16.01%	-11.16%	36.85%	238.82%
ベンチマーク	-9.41%	-5.34%	-6.42%	-4.78%	12.66%	130.81%
差	-4.28%	-9.65%	-9.58%	-6.38%	24.18%	108.01%

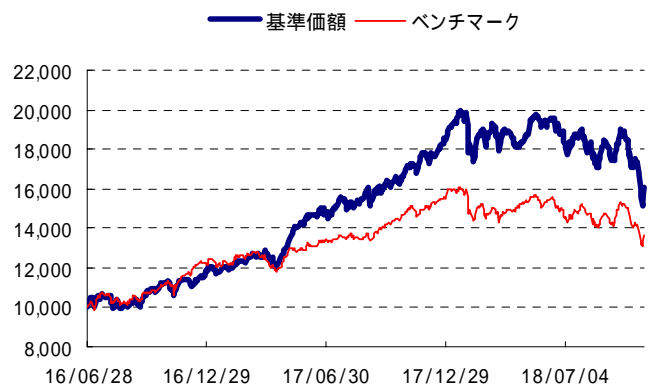
キャピタル・インターナショナル日本株式ファンド(適格機関投資家用)



騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
ファンド	-9.97%	-6.23%	-5.63%	-5.55%	15.04%	145.54%
ベンチマーク	-9.41%	-5.34%	-6.42%	-4.78%	12.66%	130.81%
差	-0.55%	-0.89%	0.79%	-0.77%	2.38%	14.73%

三菱UFJ国際 日本・小型株・ファンド(適格機関投資家用)



騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
ファンド	-14.59%	-12.90%	-12.62%	-5.75%	-	61.05%
ベンチマーク	-10.47%	-9.07%	-10.79%	-8.14%	-	36.54%
差	-4.13%	-3.83%	-1.82%	2.39%	-	24.51%

・ベンチマークは、「三菱UFJ国際 日本株・スター・ファンド」、「フィデリティ・日本株ファンド」は東証株価指数(TOPIX)、「キャピタル・インターナショナル日本株式ファンド」、「GIMザ・ジャパン」はTOPIX(東証株価指数)配当込み、「三菱UFJ国際 日本・小型株・ファンド」はRUSSELL/NOMURA Small Capインデックスです。

・TOPIX(東証株価指数)配当込みとは、東京証券取引所第一部に上場する内国普通株式全銘柄を対象として算出した指数(TOPIX)に、現金配当による権利落ちの修正を加えた株価指数です。TOPIX(東証株価指数)配当込みに関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。東京証券取引所は、TOPIX(東証株価指数)配当込みの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIX(東証株価指数)配当込みの算出もしくは公表の停止またはTOPIX(東証株価指数)配当込みの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

・RUSSELL/NOMURA Small Capインデックスは、RUSSELL/NOMURA 日本株インデックスを構成するインデックスの一つです。RUSSELL/NOMURA Small Capインデックスは、わが国の全金融商品取引所全上場銘柄の全時価総額(時価総額は全て安定持株控除後)の98%超をカバーするRUSSELL/NOMURA Total Marketインデックスのうち、時価総額下位約15%の銘柄により構成されています。RUSSELL/NOMURA 日本株インデックスは、Russell Investmentsと野村證券株式会社が作成している株価指数で、当該指数に関する一切の知的財産権その他一切の権利はRussell Investmentsと野村證券株式会社に帰属します。また、Russell Investmentsと野村證券株式会社が、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負うものではありません。

・グラフは、投資対象ファンドの設定日(2000年9月29日)前営業日(「キャピタル・インターナショナル日本株式ファンド」、「GIMザ・ジャパン」は設定日(2010年6月29日)、「三菱UFJ国際 日本・小型株・ファンド」は設定日(2016年6月28日))を10,000として指数化しております。

・設定来のファンドの騰落率は10,000(「キャピタル・インターナショナル日本株式ファンド」、「GIMザ・ジャパン」、「三菱UFJ国際 日本・小型株・ファンド」は設定日)を起点として計算しています。ベンチマークの設定来騰落率は、設定日前営業日(「キャピタル・インターナショナル日本株式ファンド」、「GIMザ・ジャパン」、「三菱UFJ国際 日本・小型株・ファンド」は設定日)の指数を起点として計算しています。

表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しております。 基準価額および分配金は1万円当たりです。

後記の「本資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。

ファンド・オブ・オールスター・ファンズ

【参考】個別ファンドのポートフォリオの状況

(データは 2018年9月28日現在) データは3ヵ月毎に更新いたします。

三菱UFJ国際 日本株・スター・ファンド

【資産構成】	
株式(現物+先物)	97.5%
一部市場	95.0%
二部市場	0.0%
JASDAQ	1.0%
その他	1.5%
株式先物	0.0%
コールローン他	2.5%
合計	100.0%

【株式組入上位5業種】		
1	電気機器	15.6%
2	情報・通信業	11.8%
3	サービス業	8.4%
4	銀行業	6.9%
5	機械	6.3%
上位計		49.1%

【株式組入上位10銘柄】			
	コード	銘柄名	比率
1	9984	ソフトバンクグループ	4.0%
2	7974	任天堂	3.4%
3	6301	コマツ	2.9%
4	7203	トヨタ自動車	2.7%
5	8729	ソニーフィナンシャルホールディングス	2.7%
6	6594	日本電産	2.5%
7	8306	三菱UFJフィナンシャル・グループ	2.4%
8	6861	キーエンス	2.4%
9	4911	資生堂	2.4%
10	5301	東海カーボン	2.3%
上位銘柄計(組入銘柄数89)			27.7%

・資産構成、株式組入上位10銘柄は、純資産総額に対する割合です。  
 ・株式組入上位5業種は、現物株式評価額に対する割合です。

フィデリティ・日本株ファンド

【資産構成】	
株式(現物+先物)	99.3%
一部市場	99.0%
二部市場	0.0%
JASDAQ	0.0%
その他	0.3%
株式先物	0.0%
コールローン他	0.7%
合計	100.0%

【株式組入上位5業種】		
1	電気機器	25.5%
2	機械	13.3%
3	保険業	7.9%
4	輸送用機器	7.3%
5	卸売業	6.1%
上位計		60.1%

【株式組入上位10銘柄】			
	コード	銘柄名	比率
1	6098	リクルートホールディングス	5.1%
2	6586	マキタ	4.7%
3	6861	キーエンス	4.4%
4	9962	ミスミグループ本社	4.2%
5	6367	ダイキン工業	4.2%
6	7701	島津製作所	4.1%
7	6594	日本電産	4.0%
8	9984	ソフトバンクグループ	3.2%
9	7269	スズキ	3.1%
10	8750	第一生命保険	3.1%
上位銘柄計(組入銘柄数81)			40.2%

・資産構成、株式組入上位10銘柄は、純資産総額に対する割合です。  
 ・株式組入上位5業種は、現物株式評価額に対する割合です。

キャピタル・インターナショナル日本株式ファンド

【資産構成】	
株式(現物+先物)	95.4%
一部市場	91.8%
二部市場	0.0%
JASDAQ	2.2%
その他	1.5%
株式先物	0.0%
コールローン他	4.6%
合計	100.0%

【株式組入上位5業種】		
1	化学	13.3%
2	電気機器	13.2%
3	機械	9.1%
4	小売業	7.6%
5	銀行業	7.2%
上位計		50.3%

【株式組入上位10銘柄】			
	コード	銘柄名	比率
1	9984	ソフトバンクグループ	3.7%
2	9983	ファーストリテイリング	3.7%
3	4063	信越化学工業	3.5%
4	6981	村田製作所	3.3%
5	4507	塩野義製薬	2.8%
6	1925	大和ハウス工業	2.8%
7	8473	SBIホールディングス	2.8%
8	3407	旭化成	2.5%
9	2914	JT	2.4%
10	6273	S M C	2.2%
上位銘柄計(組入銘柄数103)			29.6%

・資産構成、株式組入上位10銘柄は、純資産総額に対する割合です。  
 ・株式組入上位5業種は、現物株式評価額に対する割合です。

各社からのポートフォリオ情報を三菱UFJ国際投信で集計しております。なお各社データは四捨五入されたものを集計しておりますので、完全に正確な数値ではありません。

表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しております。  
 基準価額および分配金は1万円当たりです。

後記の「本資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。

ファンド・オブ・オールスター・ファンズ

【参考】個別ファンドのポートフォリオの状況

(データは 2018年9月28日現在) データは3ヵ月毎に更新いたします。

GIMザ・ジャパン

【資産構成】	
株式(現物+先物)	97.2%
一部市場	80.3%
二部市場	0.2%
JASDAQ	3.4%
その他	13.3%
株式先物	0.0%
コールローン他	2.8%
合計	100.0%

【株式組入上位5業種】	
1 電気機器	27.6%
2 情報・通信業	16.7%
3 証券、商品先物取引業	8.3%
4 サービス業	6.9%
5 建設業	6.5%
上位計	66.1%

【株式組入上位10銘柄】			
	コード	銘柄名	比率
1	8473	SBIホールディングス	5.1%
2	9984	ソフトバンクグループ	4.8%
3	6758	ソニー	4.8%
4	6754	アンリツ	4.5%
5	6981	村田製作所	4.0%
6	7974	任天堂	3.9%
7	6963	ローム	3.7%
8	9672	東京都競馬	3.3%
9	4043	トクヤマ	3.2%
10	8308	リソナホールディングス	3.2%
上位銘柄計(組入銘柄数57)			40.4%

・資産構成、株式組入上位10銘柄は、純資産総額に対する割合です。  
 ・株式組入上位5業種は、現物株式評価額に対する割合です。

三菱UFJ国際 日本・小型株・ファンド

【資産構成】	
株式(現物+先物)	96.9%
一部市場	86.5%
二部市場	0.0%
JASDAQ	4.7%
その他	5.7%
株式先物	0.0%
コールローン他	3.1%
合計	100.0%

【株式組入上位5業種】	
1 サービス業	18.8%
2 情報・通信業	17.4%
3 化学	11.2%
4 ガラス・土石製品	7.5%
5 電気機器	5.0%
上位計	59.9%

【株式組入上位10銘柄】			
	コード	銘柄名	比率
1	9416	ビジョン	2.6%
2	5352	黒崎播磨	2.4%
3	4092	日本化学工業	2.4%
4	6058	ベクトル	2.3%
5	4974	タカラバイオ	2.1%
6	4587	ペプチドリーム	2.0%
7	7172	ジャパンインベストメントアドバイザー	2.0%
8	6920	レーザーテック	2.0%
9	6055	ジャパンマテリアル	1.9%
10	4996	クミアイ化学工業	1.9%
上位銘柄計(組入銘柄数93)			21.5%

・資産構成、株式組入上位10銘柄は、純資産総額に対する割合です。  
 ・株式組入上位5業種は、現物株式評価額に対する割合です。

各社からのポートフォリオ情報を三菱UFJ国際投信で集計しております。なお各社データは四捨五入されたものを集計しておりますので、完全に正確な数値ではありません。

表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しております。  
 基準価額および分配金は1万円当たりです。

後記の「本資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。



**ファンド・オブ・オールスター・ファンズ (マンスリーコメント No.1)**

**市況動向・運用状況**

**【市況動向】**

10月(9月27日～10月30日)の国内株式市況は、海外の株式市場の下落や、米中貿易摩擦に対する懸念などを背景に下落しました。

**【ファンド・オブ・オールスター・ファンズの状況】**

当ファンドの10月の基準価額応当期間(9月27日～10月30日)では東証株価指数(TOPIX)が10.48%下落するなか、ファンド・オブ・オールスター・ファンズは14.53%の下落(9月28日～10月31日)となりました。

各社の相対パフォーマンスでは、キャピタルが相対的に良好なパフォーマンスとなった一方、フィデリティ、JPモルガンが振るいませんでした。

10月末時点での各ファンドへの資産配分は、三菱UFJ国際Aを16.42%、フィデリティを18.06%、キャピタルを15.88%、JPモルガンを21.32%、三菱UFJ国際Bを28.33%としております。

各運用会社のファンドの運用経過等につきましては以下の各社のコメントをご参照ください。

**【各運用会社の運用経過と今後の方針】～各社からのコメントを原則としてそのまま掲載しています。**

**【三菱UFJ国際投信:三菱UFJ国際 日本株・スター・ファンド】**

**【運用状況】**

今月の騰落率はマイナスとなり、ベンチマークを下回りました。「ソニーフィナンシャルホールディングス」や「ドンキホーテホールディングス」などの銘柄がプラスに寄与しました。マイナスに影響した銘柄は「エムスリー」や「島精機製作所」などです。今月も引き続き、業界内での競争力、株価水準、業界環境などを考慮し、銘柄選別や比率調整を行いました。売却銘柄は、「ペプチドリーム」などです。買付銘柄は、「エーザイ」などです。

当面の株式市況は、引き続き米国発の貿易摩擦懸念が残る中で、米国の中間選挙に向けてトランプ米大統領の今後の動きに注目が集まり、やや上値の重い展開を想定します。また関税の引き上げが行われた米中貿易摩擦の問題が実体経済や製造業を中心に個別企業の業績動向に与える影響にも注意が必要と考えます。しかし、今月の株価下落により相当程度リスク要因は織り込まれたと考えます。堅調な米国経済や米国法人税減税の効果、IoT需要や省力化投資の増加など、世界的に良好な経済環境の継続が期待されます。また、国内企業の投資意欲も高いことに加え、国内の労働市場環境も良好な状況が続いているため、徐々に消費への波及効果が期待されます。こうした投資環境から、中期的に見れば国内株式市況は堅調な展開を想定しています。

個別銘柄の選別においては、引き続き競争力の有無、収益力向上への取り組みなどを重視しています。足下の状況を吟味しつつ、マネジメント力、バリュエーション、中長期的な成長や収益力改善のためにどのような施策に取り組んでいるのかなどを精査し、競争力があり、中長期的な成長期待が持てる企業を中心に銘柄選別を行っていく方針です。

(2018年10月31日 三菱UFJ国際投信)

コメントは作成時点のものであり将来予告なく変更されることがあります。また、将来の市場環境の変化または運用成果等を保証するものではありません。なお、市況の変動等により方針通りの運用が行われない場合があります。表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しております。

後記の「本資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。

**ファンド・オブ・オールスター・ファンズ (マンスリーコメント No.2)**

[各運用会社の運用経過と今後の方針] ~ 各社からのコメントを原則としてそのまま掲載しています。

**【フィデリティ投信:フィデリティ・日本株ファンド】**

**【運用状況】**

当月の東京株式市場は、米長期金利の上昇や米中貿易戦争に対する懸念などから世界的にリスク回避の動きが広がる中、決算発表における期待外れの業績も加わって大幅安となりました。米中貿易摩擦に対する懸念の後退や円安進行などを背景とした前月からの上昇が続き、月初早々に日経平均株価が約27年ぶりの高値を回復しました。しかしその後は、米雇用統計など力強い米経済指標の発表が相次いだことを受けて米長期金利が上昇、米中貿易戦争と共に世界経済に与える影響を懸念する向きが強まって米国株が急落し、日本株もそれに追随する形で大幅に下落しました。月半ばに安倍首相が来年の消費増税を表明したことも追い討ちとなりました。その後はやや落ち着きを取り戻したものの、下旬に入ると、中国景気の減速やサウジアラビア問題など国際情勢に対する警戒感、また国内外におけるテクノロジー企業を中心に市場予想を下回る決算が相次いだことなどを背景に、再び世界的に売りが波及し、日本株も一段安となりました。月末にかけてはこれまでの株価急落に対する反動や一部の好決算企業に買い戻しが入り、下げ幅をやや縮小させました。

当月は、業種配分、銘柄選択ともにマイナスに影響し、全体でベンチマークを下回る結果となりました。業種別では、米国長期金利の上昇を背景に株価が底堅く推移した銀行銘柄をベンチマークに比べ低めに保有していた一方で、設備投資関連として業績の先行き懸念が重しとなった機械銘柄をベンチマークに比べ高めに保有していたことなどがパフォーマンスにマイナスの影響を与えました。銘柄別では、2018年度第2四半期決算が若干の営業減益だったことに加え、市場の期待に反して据え置かれた通期業績予想が失望されたマキタ、中国や東南アジアにおけるFA需要の陰りに対する懸念が強まる中で売りが加速したミスミグループ本社などがマイナスに影響しました。月間の騰落率は、東証株価指数(TOPIX)が9.41%の下落、日経平均株価は9.12%の下落でした。

**【今後の見通し】**

世界的な景気拡大と企業統治改革による収益力向上を背景とした堅調な企業業績が、日本株の中期的な上昇基調を支えるとの見方をメインシナリオに考えています。今年度から来年度に向けて企業業績は底堅く増益を維持できると見ており、現状の株価バリュエーションには割安感が強いと思われる。一方で、貿易摩擦問題を始めとして外部環境には不透明な要素が多く、先行きへの警戒感が相場の上値を抑えると同時に、短期的な変動性を高くする可能性があります。中期的な視点から、高い製品力や独自のビジネスモデルによる差別化された競争力を備え、着実な収益成長が見込まれる銘柄を選択していきます。また、成長投資による収益力向上や、積極的な株主還元による資本効率改善を図る企業も注目されます。

**【運用方針】**

当ファンドの銘柄選択基準は以下のとおりです。

- ・成長市場において、競争優位性を保持している企業
- ・フリー・キャッシュ・フローが潤沢である、あるいは改善している企業
- ・経営者が株主利益の拡大に注力している企業
- ・長期的な収益成長性と資産時価に比べてバリュエーションに相対的な魅力がある企業

(2018年10月31日 フィデリティ投信 ファンドマネジャー: 田野純)

**【キャピタル・インターナショナル:キャピタル・インターナショナル日本株式ファンド】**

**【運用状況】**

当ファンドは前月末比で9.97%下落し、ベンチマークであるTOPIX(東証株価指数)配当込みを下回りました。当ファンドの主要投資対象であるキャピタル・インターナショナル・ジャパン・エクイティ・マザーファンドの運用においては、銘柄選択が主なマイナス要因となりました。影響の大きかった業種、個別銘柄では、情報・通信業の銘柄選択(ソフトバンクグループの保有など)、輸送用機器の銘柄選択(デンソーの保有など)、証券・商品先物取引業の銘柄選択(SBIホールディングスの保有など)が主なマイナス要因となりました。一方、精密機器の銘柄選択(ナカニシの保有など)、機械の銘柄選択(SMCの保有など)が主なプラス要因でした。当月末時点のポートフォリオを業種別に見ると、ベンチマークとの比較では化学、機械、精密機器、建設業、小売業の比率が高く、陸運業、輸送用機器、サービス業、不動産業、医薬品などの比率が低くなっています。

**【運用方針】**

国内景気は、賃金回復による消費の拡大、設備投資回復の継続、外需の拡大などから緩やかに回復する見通しです。物価は、労働需給の逼迫などから今後徐々に上向くと見込まれます。企業業績は、内外経済の緩やかな回復、企業の収益性の改善などから増益基調が継続する見通しです。株式市場のバリュエーション(投資価値基準)は依然として割安な水準にあり、企業業績見通しや株主還元が改善するにつれ見直しが入ると考えられます。株式市場は、企業業績とバリュエーション双方の拡大により、堅調な推移が見込まれます。一方、米国株式のバリュエーション調整再燃、中国経済の大幅な下振れ、貿易摩擦の実体経済や企業収益への影響、米国の利上げペースが速まる場合の新興国経済・通貨に与える影響、これらの実現による円高の進行などは市場の変動性を高めるリスク要因として注意が必要です。リスク要因で株価が大きく振れる市場環境では、株価バリュエーションと企業の中長期的な収益成長の検討がより重要になると考えます。引き続き、企業訪問を中心とした情報収集や銘柄ごとの投資判断を重視した運用に努めます。

(2018年10月31日 キャピタル・インターナショナル)

コメントは作成時点のものであり将来予告なく変更されることがあります。また、将来の市場環境の変化または運用成果等を保証するものではありません。なお、市況の変動等により方針通りの運用が行われない場合があります。表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しております。

後記の「本資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。

**ファンド・オブ・オールスター・ファンズ (マンスリーコメント No.3)**

**[各運用会社の運用経過と今後の方針] ~ 各社からのコメントを原則としてそのまま掲載しています。**

**【JPモルガン・アセット・マネジメント: GIMザ・ジャパン】**

当ファンドの基準価額は前月末比で13.69%下落し、ベンチマークを下回りました。当月は、市場全体でリスク回避姿勢が強まり世界景気への不透明感が高まった中、半導体関連や電子デバイスなどのテクノロジー関連銘柄のほか、先進医療関連やIT関連など注力している投資テーマの銘柄の株価が冴えなかったことなどから、全体ではベンチマークを下回る結果となりました。具体的な銘柄の動きとしては、家庭向けに加え医療や農業分野への応用が期待される電解還元水整水器メーカー、ダムやトンネルなどの大型土木工事に強く歴史的な大型案件の実績が豊富な土木系ゼネコンなどがプラスに寄与しました。一方、インターネットを通じたテクノロジーイノベーションにより事業の世界的な成長を目指す通信キャリア大手、国内外でベンチャーキャピタル投資業務を展開するほか証券業務や投資銀行業務などを手掛ける総合金融サービス事業者、フィルム写真関連事業からヘルスケア関連事業などへの業容転換で再飛躍を図る医療関連グループ企業、光ファイバーを軸とした情報通信分野に加えエネルギーや自動車分野などで幅広く事業を展開する電線・非鉄金属大手などがマイナスに影響しました。株式市場は、企業業績や世界経済のけん引役である米国の金融政策及びマクロ経済の動向に加え、トランプ米大統領の政策実行力や米国の中間選挙の動きなどに左右される展開が続くと想定しています。米国経済は良好な労働市場などを背景に堅調な推移が続く中、米連邦準備制度理事会(FRB)による利上げなど金融政策の動向が引き続き注目されると見えています。また、米中をはじめとした貿易摩擦の影響や新興国の通貨安などについては、リスク要因として注視していきます。貿易摩擦などの外部環境の影響には注視が必要と考えるものの、国内企業の業績は堅調に推移しています。企業統治の強化にも引き続き注目しており、日本企業の株主還元及び資本効率の改善も期待できると考えます。投資の視点としては、引き続き中長期的な独自の成長ストーリーを有する銘柄が投資家から選好されると考えています。注目し、重点的に投資している代表的なテーマは以下の通りです。IoT(モノのインターネット)の普及によって成長が期待される半導体や電子部品などの分野・ITを活用し既存の業界を変革することで成長が期待できるフィンテック(金融とITの融合)、リアルエステートテック(不動産とITの融合)、HRテック(人材・人事とITの融合)、i-Construction(建設とITの融合)関連の企業・バイオテクノロジー、先進医療、医療機器に対する政策支援や市場拡大の恩恵を受けると期待される企業・明確な競争優位性を確立し、市場シェア拡大により中期的な収益拡大が期待できる消費関連企業・普及拡大が期待される自動車の自動運転技術や電装化関連分野・新興国での需要拡大が見込まれる消費財、医療サービス、社会インフラ関連の企業・通信インフラの拡張、ビッグデータやクラウドコンピューティング化、スマートフォンの普及率の上昇により新たな市場の成長が見込まれるインターネット、IT関連のビジネス分野・社会インフラの老朽化に伴う都市機能の強化や更新需要の恩恵を受けると考えられる建設関連企業・新興国における人件費の上昇やIoTを活用した製造現場での技術革新などが追い風となることが期待されるFA(工場自動化)関連企業 その他、内外マクロ経済の動向に大きく左右されず、個別の成長ドライバー(駆動力)を有すると判断できる銘柄の新規発掘にも引き続き注力します。

(2018年10月31日 JPモルガン・アセット・マネジメント)

**【三菱UFJ国際投信: 三菱UFJ国際 日本・小型株・ファンド】**

**【運用状況】**

今月の騰落率はベンチマークを下回る推移となりました。業種配分では銀行業のアンダーウェイトなどがプラスに寄与した一方でガラス・土石製品のオーバーウェイトなどがマイナスに影響しました。個別銘柄では「技研製作所」、「ネクステージ」、「乃村工藝社」などがプラスに寄与しました。一方、「ベクトル」、「ビジョン」、「エアリンク」などがマイナスに影響しました。一部売却を含む主な売却銘柄は「RS Technologies」、「ブレインパッド」、「TOWA」などです。一方、新規買い付けを含む主な買付銘柄は「Hamee」、「システナ」、「日本エム・ディ・エム」などです。

今月は株式市場全体が大きく下落する中、小型株は相対的に大型株より大きな株価下落となりました。

企業の中間決算発表がスタートしておりますが、すでに発表された決算内容を見ますと、2018年度業績見通しについては国内、海外のマクロ環境の不透明感などから慎重な見方をする企業が多いという印象で、一部の個別銘柄ではこのような見方が軟調な株価推移につながっているケースがみられます。一方、株価下落によりバリュエーション面では割安感が高まった銘柄も増えていると考えております。

このような環境下では個別銘柄選択がより重要になると考えており、外部環境、内部資源(競争力)、経営戦略、マネジメント、事業リスクといった銘柄選定の視点を改めて再認識し、引き続き成長企業の発掘を継続していく所存です。今後発表が続く中間決算内容も踏まえ、保有銘柄や新しく組入候補となる銘柄などを中心に業績および株価推移を再確認し、パフォーマンスの向上につなげたいと考えております。中期的には堅調な株価推移を期待する一方、足下では米国長期金利上昇に伴うリスクオフの動きや中国景気減速懸念など海外に端を発する不安定要素が依然として存在しており、地政学リスクなども含め、今後の動向に注意が必要だと考えております。

ここ数年の株価上昇において、小型株の上昇は大型株を上回るものでしたが、今年に入ってから調整局面が続いております。しかしながら、日本の小型株市場はまだまだ非効率的で、投資家に十分に認知されていない成長企業は多く存在すると考えており、こうした成長企業への投資を継続する方針です。一方、バリュエーションに割高感のある銘柄には引き続き注意が必要と考え、状況に応じて銘柄の入れ替え等も検討いたします。

個別銘柄選別をコアの投資戦略としつつ、マーケット全体の方向性やセクター動向なども注視していく方針です。

(2018年10月31日 三菱UFJ国際投信)

コメントは作成時点のものであり将来予告なく変更されることがあります。また、将来の市場環境の変化または運用成果等を保証するものではありません。なお、市況の変動等により方針通りの運用が行われない場合があります。表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しております。

後記の「本資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。



## ファンド・オブ・オールスター・ファンズ

### ファンドの目的・特色

#### ファンドの目的

わが国の株式を実質的な主要投資対象とし、日本株運用で実績のある運用会社が運用を行う複数のファンドへ投資を行うことにより、中長期的な値上がり益の獲得をめざします。

#### ファンドの特色

##### 特色1 日本株運用で実績のある運用会社を選定

・日本株運用で実績のある運用会社のファンドマネージャーが、それぞれ独自の運用スタイルで運用することで、ファンド全体のパフォーマンス向上を図ります。

##### 特色2 1つのファンドで複数のファンドへの投資が可能

・各運用会社のファンドをパッケージ化した「ファンド・オブ・ファンズ」です。資産形成の一助として、ワン・パッケージで複数のファンドに投資できる利便性を提供します。

<投資対象ファンド>

三菱UFJ国際 日本株・スター・ファンド(適格機関投資家用)

フィデリティ・日本株ファンド(適格機関投資家用)

キャピタル・インターナショナル日本株式ファンド(適格機関投資家用)

GIMザ・ジャパン(適格機関投資家用)

三菱UFJ国際 日本・小型株・ファンド(適格機関投資家用)

##### 特色3 各運用会社のファンドは日本企業の株式に投資

・各社独自の調査・分析により、成長が期待できる日本企業の株式に投資します。

#### 分配方針

・年2回の決算時(3・9月の各27日(休業日の場合は翌営業日))に分配を行います。

・分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。

・分配対象収益が少額の場合には、分配を行わないことがあります。また、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

市況動向および資金動向等により、上記のような運用が行えない場合があります。

### 投資リスク

#### 基準価額の変動要因

ファンドの基準価額は、組み入れている有価証券等の価格変動による影響を受けますが、これらの運用により信託財産に生じた損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。

したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

投資信託は預貯金と異なります。

ファンドの基準価額の変動要因として、主に以下のリスクがあります。

価格変動リスク	一般に、株式の価格は個々の企業の活動や業績、市場・経済の状況等を反映して変動するため、ファンドはその影響を受け組入株式の価格の下落は基準価額の下落要因となります。
信用リスク	組入有価証券等の発行者や取引先等の経営・財務状況が悪化した場合またはそれが予想された場合もしくはこれらに関する外部評価の悪化があった場合等には、当該組入有価証券等の価格が下落することやその価値がなくなること、または利払い・償還金の支払いが滞ることがあります。
流動性リスク	有価証券等を売却あるいは取得しようとする際に、市場に十分な需要や供給がない場合や取引規制等により十分な流動性の下での取引を行えない場合または取引が不可能となる場合、市場実勢から期待される価格より不利な価格での取引となる可能性があります。

#### その他の留意点

・ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリングオフ)の適用はありません。

・収益分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益の水準を示すものではありません。収益分配は、計算期間に生じた収益を超えて行われる場合があります。

投資者の購入価額によっては、収益分配金の一部または全部が、実質的な元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。

収益分配金の支払いは、信託財産から行われます。したがって純資産総額の減少、基準価額の下落要因となります。

**ご購入の際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。**

## ファンド・オブ・オールスター・ファンズ

### 手続・手数料等

#### お申込みメモ

購入単位	販売会社が定める単位 / 販売会社にご確認ください。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額 基準価額は1万口当たりで表示されます。基準価額は委託会社の照会先でご確認ください。
換金単位	販売会社が定める単位(ただし、1万口を上回らないものとします。) / 販売会社にご確認ください。
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額から信託財産留保額を差引いた価額
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して5営業日目から販売会社においてお支払いします。
申込締切時間	原則として、午後3時までに販売会社が受付けたものを当日の申込分とします。
換金制限	ファンドの資金管理を円滑に行うため、1顧客1日25億円を超える換金はできません。 また、大口の換金のお申込みに制限を設ける場合があります。
購入・換金申込受付の中止及び取消し	金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止すること、およびすでに受付けた購入・換金のお申込みの受付を取消すことがあります。
信託期間	無期限(2000年9月28日設定)
繰上償還	受益権の口数が100億口を下回るようになった場合等には、信託期間を繰上げて償還となることがあります。
決算日	毎年3・9月の27日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	年2回の決算時に分配を行います。 販売会社との契約によっては、収益分配金の再投資が可能です。
課税関係	課税上は、株式投資信託として取扱われます。個人受益者については、収益分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の譲渡益に対して課税されます。NISA(少額投資非課税制度)およびジュニアNISA(未成年者少額投資非課税制度)の適用対象です。税法が改正された場合等には、変更となることがあります。くわしくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

#### ファンドの費用

##### お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料	購入価額に対して、 <b>上限3.24%(税抜3%)</b> (販売会社が定めます) (購入される販売会社により異なります。くわしくは、販売会社にご確認ください。)
信託財産留保額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額に <b>0.3%</b> をかけた額

##### お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用(信託報酬)	当該ファンド 日々の純資産総額に対して、 <b>年率1.026%(税抜年率0.95%)</b> をかけた額 投資対象とする投資信託証券 投資対象ファンドの純資産総額に対して <b>年率0.918%程度(税抜年率0.85%程度)</b> 実質的な負担 当該ファンドの純資産総額に対して <b>年率1.944%程度(税抜年率1.8%程度)</b> 投資対象とする投資信託証券の信託(管理)報酬率を合わせた実質的な信託報酬率です。
その他の費用・手数料	監査法人に支払われるファンドの監査費用・有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料・有価証券等を海外で保管する場合、海外の保管機関に支払われる費用・その他信託事務の処理にかかる諸費用等についてもファンドが負担します。 上記の費用・手数料については、売買条件等により異なるため、あらかじめ金額または上限額等を記載することはできません。

運用管理費用(信託報酬)および監査費用は、日々計上され、毎決算時または償還時にファンドから支払われます。

上記の費用(手数料等)については、保有金額または保有期間等により異なるため、あらかじめ合計額等を記載することはできません。  
なお、ファンドが負担する費用(手数料等)の支払い実績は、交付運用報告書に開示されていますのでご参照ください。

### 本資料のご利用にあたっての注意事項等

本資料は、三菱UFJ国際投信が作成した資料です。投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。本資料中のグラフ・数値等は、過去の実績・状況であり、将来の市場環境等や運用成果を示唆・保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮していませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。銀行等の登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の補償の対象ではありません。投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。

委託会社(ファンドの運用の指図等)

三菱UFJ国際投信株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号

加入協会: 一般社団法人 投資信託協会

一般社団法人 日本投資顧問業協会

<ホームページアドレス> <https://www.am.mufig.jp/>

<お客さま専用フリーダイヤル> 0120 - 151034

(受付時間 営業日の9:00 ~ 17:00)

受託会社(ファンドの財産の保管・管理等)

三菱UFJ信託銀行株式会社

**ご購入の際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。**

## 販売会社情報一覧表

ファンド名称: ファンド・オブ・オールスター・ファンズ

商号	登録番号等		日本証券業協会	一般社団法人 日本 投資顧問業 協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種 金融商品 取引業協会
	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第6号				
株式会社 池田泉州銀行	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第6号				
株式会社 SBI証券	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第44号				
スルガ銀行株式会社	登録金融機関	東海財務局長(登金)第8号				
株式会社 三菱UFJ銀行(*)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第5号				
三菱UFJ信託銀行株式会社	登録金融機関	関東財務局長(登金)第33号				
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第195号				

商号欄に(\*)の表示がある場合、新規申込のお取扱いを中止しております。